

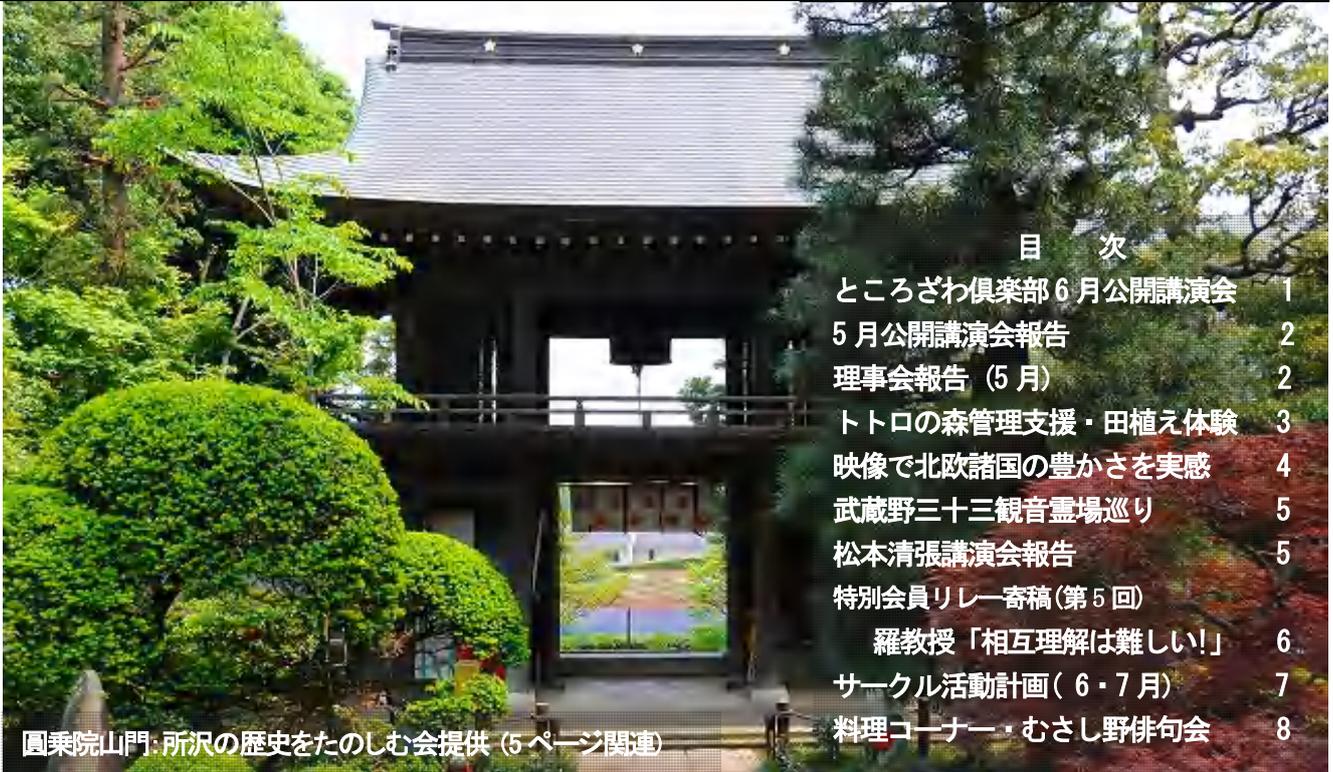
地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2012 年 6 月号 (第 51 号)

発行責任者 加曾利 厚雄



圓乗院山門: 所沢の歴史をたのしむ会提供 (5 ページ関連)

目次

ところざわ倶楽部 6 月公開講演会	1
5 月公開講演会報告	2
理事会報告 (5 月)	2
トトロの森管理支援・田植え体験	3
映像で北欧諸国の豊かさを実感	4
武蔵野三十三観音霊場巡り	5
松本清張講演会報告	5
特別会員リレー寄稿 (第 5 回)	
羅教授「相互理解は難しい!」	6
サークル活動計画 (6・7 月)	7
料理コーナー・むさし野俳句会	8

ところざわ倶楽部 6 月公開講演会

「習近平政権: 中国はどこへゆくのか?!」**中国が動く! 変わる! 目が離せない注目の講演会に参加しよう!**

アジア研究会 池田新八郎

- ◆ 中国経済は高成長が続くのか?
- ◆ 中国政治は民主化に邁進するのか?
- ◆ これから 10 年の日中関係はどうなるのか?

講師: 羅欽鎮 東京経済大学経済学部教授

日時: 6 月 20 日 (水曜日) 午後 2 時 ~ 4 時

午後 1 時 30 分受付開始

場所: 小手指公民館分館ホール

参加費: 無料

主催: ところざわ倶楽部、協力: アジア研究会

問い合わせ: 小椋 (2921-7739) 池田 (2940-0711)
岡田 (2924-3184)

我々日本人にとって中国は常に気になる存在です。今や中国は日本にとって最も大切な隣国で政治・経済的、歴史・文化的にも切っても切れない関係です。

毎日のように伝えられるホットな中国関連ニュース。5 月 30 日は中国外交官のスパイ事件、先日まではウイグル自治区の東京国際大会開催への批判、石原東京都知事の尖閣諸島購入宣言、日中韓自由貿易協定、盲目

の人権運動家陳光誠氏の渡米問題、中国に関する話題にはことかきません。我々が願っているのは中国の民主化、自由化と友好関係の構築ですが、大国中国は頑として己の道を歩みます。

今年は日中国交正常化 40 周年に当たる記念すべき年なのですが、中国は、今秋政権交代が予定され、胡錦濤政権から習近平政権に移行します。最近、チャイナ 9 (権力の中枢、党常任委員) として有望視されていた薄熙来重慶市長が失脚し、なにやら権力争いの様相も呈していますが、今後 10 年間の中国の政権を担う習近平はどういう政策を打ち出し、日中関係をどのように考えているのでしょうか? また、中国はどこへいくのでしょうか? 市民大学 14 期の講義で人気を集め、東京経済大学で教鞭をとられている気鋭の中国人経済学者羅欽鎮教授に本当の中国について語って頂きます。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

(別添の資料参照)

《 5月講演会報告 》

歌舞伎・文楽の中の清盛像

編集委員 小林 典子

5月17日(木)中央公民館で、近藤瑞男先生(共立女子大学芸学部教授)による上記の講演を、100名近い参加者と共にお聞きしました。以下は講演の「聞き書き」の形で報告します。

歌舞伎の歴史についてはよく知られているのでここでは省略し、文楽の歴史について触れておきたい。

文楽は、浄瑠璃姫と牛若丸の恋物語を、座頭が琵琶を伴奏に語ったものが起源とされる。慶長の頃この語りに三味線と操り人形を結合して浄瑠璃を形成。

19世紀初め大阪の植村文楽軒が小屋をたてて浄瑠璃の興業を始め、明治に入ってこの小屋は文楽座と命名した。以来、文楽は人形浄瑠璃の代名詞となり、「大人の鑑賞する世界唯一の人形劇」となった。

以上の歴史から、歌舞伎・文楽の中の清盛像とは、江戸時代の人達が清盛をどう考えていたかということになる。

清盛は一言でいえば「悪逆非道の支配者」である。



清盛が実際の舞台に登場する演目が殆んど無いにも拘らずである。それでは舞台の原作ではどのように描かれてきたか。「鬼一法眼三略巻(きいちほうげんさんりやくのみまき)」では清盛に敗れた夫義朝の死後、清盛の妾になった常盤御前は、その後一条大蔵卿に嫁ぎ日夜揚弓に興じているのを周囲から責められて、

「的の中に清盛の絵姿を入れ平家調伏を祈っていた」と本心を明かす。また、近松門左衛門作の「平家女護嶋(へいけにょごがしま)」では、平家滅亡を策して島流しになった僧俊寛の妻(あずまや)は、清盛からの側仕えの強要に操をたてて自害、一方、赦されて都へ帰還する途中の元流人成経と結婚した海女(千鳥)は清盛に殺されてしまう。女性二人の怨霊に憑りつかれた清盛は、焦熱地獄の中で息絶える……。

6月の国立劇場の歌舞伎鑑賞教室は、橋之助の「俊寛」。公演前の「歌舞伎の見方」も面白いです。

楽しくて感動的なお話がいっぱいの講演でした。

平成24年5月理事会報告

総務部長 菅沼 庸雄

5月理事会は14日(月)10時から開催された。

1. 加曾利会長から当面の諸課題に対する所見

- (1) カルチャー・スクール構想：事業部・編集委員会の合同委員会で検討を始めた。今後名称に拘らず検討を進める。
- (2) 理事会での各部会活動の活性化を目指し、定期的な部会開催などを進める(本日も開催予定)。
- (3) ダースの会の倶楽部からの脱退の認識：主因は会員の会費納入拒否と理事へのなり手不足と聞く。

以上3件とも倶楽部の重要な課題を抱えている。皆さんの前向きな議論・取組みを期待する。

2. 若山事業部長から、事業部事案の諸報告

- (1) 5月講演会は「歌舞伎・文楽の中の清盛像」準備中。
- (2) 7月「文化芸能祭」は7月27日2時から中央公民館ホールで開催予定。5グループの参加で準備中。
- (3) アジア研究会から、6月に公開講演会「習近平政権：中国はどこにゆくのか!」の提案、理事会で承認

された。

3. 池田広報部長からは、広報部事案の諸報告

- (1) 広場5月号の紹介。特別会員の先生の寄稿が好評。8頁版の広場の編集が定着してきた。
- (2) 広場6月号の企画紹介と記事の依頼。「地域の自然を考える会」「北欧の会」の活動報告を中心に計画。
- (3) 倶楽部のホームページ：順調な滑り出し。

4. 菅沼総務部長

- (1) 第5期前半の会計報告。大きな問題は無い。
- (2) 公民館の利用申請：倶楽部、各サークルとも使用申請の見直しの次期、対応を。

5. その他理事提案議題

同好会の扱いの明確化の要望提案があった。原則は会則の通りだが、新事業の提案と関連し見直しも。

[次回理事会予告]

第7回6月11日(月)、第8回7月9日(月)

支え！ 学び！ 遊ぶ！ サークル活動レポート

【地域の自然を考える会】

トトロの森管理支援と田植え体験

前岳良子

「地域の自然を考える会」の最近の活動の一端をご紹介します。皆様も一緒に活動しませんか？

<トトロの森 12 号地 管理作業>

今年から「トトロの森ふるさと基金」の要請を受け、「トトロの森 12 号地」の管理作業に協力することになり、5 月末までに計 4 回行いました。

主な作業は、低・中木の伐採や枯れ木の処理、雑草取りです。

作業開始に当たって、「クロスケの家」で「里山管理技術講習」を受け、鎌や鍬の使い方、道具の扱い方やロープの結び方、ヘルメットの被り方等を学びました。

最初は、慣れない作業の連続で戸惑いましたが、安全に配慮しつつ、回を重ねる毎にスムーズに作業を進める事ができるようになって、作業は順調に推移し、12 号地も見違えるように綺麗になりました。

作業の結果生まれた素敵な空間には、珍しい草花の

発見があったり、爽やかな風を受けたり、少しの疲れと沢山の充実感を味わう事が出来ました。

今後も所沢の良い緑を残す為に活動していきたいと思えます。



<糞谷八幡湿地地区 田植え体験>

昨年からはまった糞谷八幡湿地地区での「田植え体験」を、5 月 26 日（土）に晴天の下、鶯の鳴き声、蛙の大合唱、そして塩辛トンボの大歓迎を受けて行いました。

今回、植えた稲苗は「はぶたいもち」です。



この田植え作業がなかなか大変で、水が一杯の田んぼに長い幅広の板を渡し込み、その上に乗って苗を植え込んでいく。縦、横の間隔を等間隔にするために、畔と畔の間に目印用のリボンのついたロープを張り、それに合わせて苗を植え込む。10 分も腰を折り曲げて作業をしているとじっとりと汗が滲み出て来る。

朝方、雨が降ったのか、いつの間にか東の空に綺麗な虹が架かっていました。所沢にも、こんな自然が一杯の素晴らしい場所あるのかと思わず感嘆。

休み休みの作業ながら、午前中の作業を無事終了。この秋の米の収穫がどんなかと、今から楽しみです。

土に触れ、手ずから植えたお米の味はまた格別でしょう。

植えた苗がもち米ですから餅つきも楽しみです。

<今後の予定>

「トトロの森 12 号地」の管理作業を中心に、早稲田大学 WAVOC 湿地保全活動への積極的参加、糞谷八幡湿地事業への参画、定例会の開催、さいたま緑の森

博物館（所沢市分）への応援等の活動を行なっていく予定です。

【 北欧の会 】

映像で、北欧諸国の豊かさを実感しています。

樋口俊夫

北欧の会は、北欧諸国の社会システムとそこに住む人の考え方等を学び、学んだことを地域に生かすことを目的に発足し今年で4年目を迎えた。月1回の例会で行ってきた主な活動は、北欧関係の著書の紹介や発表と話し合い、DVD やビデオによる映像や映画鑑賞、大使館訪問などである。ここでは公民館を会場とした最近の活動の様子を報告したい。



新入会員

今年1名の新入会員があり8名で活動をしている。新会員の稲村さんは、あるスウェーデン企業で働いていた経験があり、3月の例会では、その経験や旅行の体験に基づくスウェーデン人の国民性などについて、また、スウェーデンの代表的な企業の1つであるイケアについて、経営理念や創立者カンプラドの生い立ちや考え方などを話してもらいました。

「こども幸福度世界一のオランダの秘密」「オランダ移民の街、白熱議論で子育て」「オランダの教育」「オランダのワークシェアリング」です。

日本の状況からは想像もできない内容で、特に教育の内容は驚くものでした。北欧やヨーロッパの小国オランダの豊かさが、どのように出来ているのかを実感できました。

映像で見るとわかりやすく、自宅でも見ることができますので関心のある方にお勧めします。

4月 映像鑑賞「オランダ特集」

尾邑さんがパソコンを持ち込み、YouTube 映像鑑賞「オランダ特集」を行いました。

5月 DVD 映画鑑賞「キッチン・ストーリー」

ノルウェー＝スウェーデン映画



1950年代初頭。スウェーデンで『独身男性の台所行動パターン調査』が始まり、調査員のフォルケはノルウェーの田舎町にやってきた。しかし、調査対象の老人イザックは台所を使おうとしない。一方、調査員は調査される男性と交流してはならない規則のため、フォルケは黙ってイザックを観察する。気まづい日々が過ぎたある日、フォルケとイザックはふとしたきつ

かけで会話を始めた。次第に心を通わせていく2人だが、やがて、規則違反がフォルケの上司に知られてしまう…。そんなストーリーの映画だが人間同士の心の交流を飾らない素朴な描写で描き、人生の意味まで考えさせてくれる北欧ならではの映画と言えるのではないのでしょうか。

担当した児新さんから、「ほのぼのとしてとても心温まる映画でした」との感想がありました。

6月 AFS 交換留学生のお話し(予定)

フィンランドに1年間留学した高校生のお話を聞きます。ホームステイをしながら高校に通学したのですが、フィンランドの家庭の様子や授業やクラスの様況など話してもらいます。北欧での生の生活の音が聴けるとおもいます。関心のある方は会員でない方の参加もOKです。

参加希望の方は席を用意しますのでご一報ください。

【所沢の歴史をたのしむ会】

武蔵野三十三観音霊場巡り

佐野弘太郎

3月15日練馬高野台駅下車。一番「長命寺」へ。境内には紀州高野山を模してつくられた寺がたてられ、「東高野山」と呼ばれてきました。長年通勤で通過して来た駅ですが、今回初めて駅名の由来を知りました。

石神井川に沿って二番「道場寺」へ。総檜造りの三重塔が歴史の重みを感じさせます。三番「三宝寺」は、池と共に古くから名を知られ広大な敷地と鬱蒼とした巨樹は圧巻です。

第2回は雨天順延。第3回は5月10日東村山駅から歩きます。途中東村山ふるさと歴史館に寄り、ケヤキの大木をくりぬいた丸木舟など、貴重な陳列品を見学しました。

七番「徳蔵寺」には、立派な板碑保存館があり、住職から丁寧な説明を受けました。有名な「元弘の碑」（国重要文化財）は、「太平記」の記述を裏付ける物証として貴重なものです。



徳蔵寺にて

八番「圓乗院」へ向かう途中で、散歩中の地元の方としばらく話しながら歩きました。その方と別れて狭山公園を抜けると、到着です。山門の上に鐘楼があり、しかも参拝者が山門上に登れることには全く驚きました。境内も広く堂々とした大寺院でした。

「犬も歩けば棒に当たる」と言われますが、巡礼の楽しみは行く先々で思いがけない出会いがあることだと思います。四国八十八所巡拝の折、徳島のなんでも屋のおばさんに聞かれて、埼玉県からと答えたところ「まあ、ご遠方から、こないだはオランダから来た人がいました」と言われた時には全くびっくりしました。徳島のおばさんから見れば、埼玉県はオランダ並みの遠い国なのかという体験でした。

まさに「人生は遍路」と思います。そこには様々な出会いがあり、そして別れがあります。

末筆ながら、巡礼の企画、段取り等ご手配頂いた役員さんがたに感謝申し上げます。

市民文学講座「3.11以後に松本清張を読む」を聴講して

「漆の実」平栗彰子

5月18日（金）、中央公民館で開催された、早稲田大学文学部大学院教授高橋敏夫先生の「3.11以後に松本清張を読む」と題する講演をお聞きしての報告です。

3.11の大地震とそれに続く原発事故は、未だにメディアに取り上げられ、「実はあの時・・・」とか、「今だから言える・・・」と言う論調が目を引きます。

稼動する原発がゼロとなる時期を迎えたいま、松本清張の視点から世の中を考えると、どういうことが浮かび上がるのか、興味を持って参加された方が多かったと思います。

高橋先生はいつもの調子で該博な知識を披露され、興味深いエピソードも多く挟まれるので、なかなか本題に辿りつかず、気を揉む場面もありましたが、最後に「神と野獣の日」（1973年・角川文庫）を取り上



げて、そのテーマが原発事故のときの、この国の指導者の動きと重なって見えることを指摘されました。

「重大事態の発生です！」との緊急連絡から43分後に、首都東京は誤射された核搭載ミサイルによって壊滅する恐れあり、という設定です。その時首相の脳裏をよぎったものは？ 責任ある行動とは？

高橋先生は、「隠蔽」と「暴露」の構造をエンターテインメントにして大衆にアピールした松本作品の先見性を評価していますが、更に私たちにも、それぞれの立場で、文学鑑賞の域を越えた社会への参加を示唆されていると思えました。

9月からの6回シリーズで清張作品を取り上げた高橋先生の講座が、益々楽しみです。

（当日の参加者約240名）

相互理解は難しい！

… 大学院時代のエピソード …

東京経済大学教授 羅 歆鎮

今年（2012年）は、日中国交正常化40周年に当たりますが、尖閣諸島（中国名「釣魚島」）事件などで国民の間に相互不信が高まっています。日中間の相互不信は、歴史認識、領土問題、経済貿易摩擦など多方面にかかわっていますが、相互誤解も一つの要因ではないかと思えます。

以下、私が大学院時代に経験した二つの事例を紹介し、相互理解の難しさを説明したいと思います。

一番目の橋はどこ？

中国でも、揚子江をはじめとする大きな川にはいくつもの橋が架けられています。人々はそれらの橋を、「一橋」（一番目の橋）、「二橋」（二番目の橋）のように略称を用いて親しんでいます。私のふるさとの浙江省の都、杭州市を流れる銭塘江には「銭江一橋」、「銭江二橋」など、計画中の橋を含む「銭江十橋」があるといわれています。

20数年前に、私は中国政府の推薦で在中国日本大使館の面接試験に合格し、国費留学生として日本に留学



できることになりました。しかし、留学先の大学は未定でした。そこで日本人のご両親を持つ同僚の楊先生に、経済学に優れた先生の紹介をお願いしました。楊先生は、一橋大学大学院経済学研究科のある著名な

先生を紹介してくれました。その当時、日本の大学なら「東京大学」、「早稲田大学」しかないと思い、内心は「東京大学」を紹介してくれるだろうと期待したので、「一番目の橋」が紹介されて落胆しました。

なぜ東京大学ではなく「一番目の橋」を紹介したのか。そこで楊先生は戸惑いながら一橋の経済学が東大より優れていること、日中国交正常化にご尽力した大平首相が一橋出身であったことなど、私を懸命に説得しようとしたのです。

20年前と比べれば一橋大学は、学界や経済界でも国際的に多少知られてきていると思いますが、東大や早稲田ほど有名ではありません。今後も「一番目の橋」の大学はどこだ、と中国で聞かれ続けることでしょう。

お前は中華思想の持ち主でしょう！

同じく大学院時代のエピソードです。授業中先生から突然「羅君は中華思想の持ち主でしょう」と言われました。自分は日本に留学し、一生懸命日本の優れたことを勉強し、中国に紹介していくつもりでしたが、中華思想の持ち主だといわれて、びっくりしました。当時私は中華思想という言葉さえ知りませんでした。

中華思想の定義は難しいが、概ね次のように理解されています。文明が高度に発達している中華（華夏、中国とも言う）が真ん中にあり、周囲（東夷、南蛮、西戎、北狄）は野蛮な地域で、中華文明をもって「文化」されなければなりません。なお、当時の中華の範囲は現在の中国陝西省、河南省あたりでした。日本では、「東夷」は日本のことをさすと思われがちですが、現在の山東省あたりはその当時東夷の一部、私のふるさとの浙江省は南蛮の一部とされていたようです。

ただし、古代の中国人はこのように自分達の優れた文明を、武力をもって押し付ける（「武化」）のではなく、その優秀さを示すことにより相手が受け入れる形（「文化」）で文明を普及したのです。

このような周辺を見下す華夷観念は近代まで生き続けました。

19世紀に入ると、中華文明が優れていると自認していた中国人は、アヘン戦争、日清戦争など一連の敗戦および不平等条約で「亡国滅種」（中国および中国人が滅びる）の危機にさらされました。最初は「中体西用」（中国の伝統的思想・文化・制度を根幹にすえ、運用の面では西洋文明の科学・技術を導入しようとする）

で凌ごうとしましたが、清末の変法やマルクス主義の受け入れで、伝統中国のことがほとんど否定されました。当然、従来の「中華思想」を放棄し、外国の月も中国のそれより「丸い」ほど「崇洋媚外」（外国を崇拜する）になってしまったのです。改革開放後の中国は高度経済成長で多少自信を回復し、「中華民族の復興」を叫んでいますが、周りを野蛮地として見下す中国人はほとんどいないのではないかと思います。

中国人の一橋大学に対する無知、また（一部の）日本人の中国人がみな中華思想の持ち主という思い込みは、日中両国の相互理解の難しさを表した象徴です。

サークル活動計画

■6月・7月の活動に、皆さん参加してみませんか！

<p>アジア研究会（小椋雄二 2921-7739） 6月20日（水）6月定例会 14～16時 小手指公民館分館ホール、ところざわ倶楽部との共催公開講演会 講師：東京経済大学羅歆鎮教授 7月中旬懇親昼食会予定 詳細後報</p>	<p>地域の祭り研究会（影山洋 2921-8522） 6月21日定例会 新所沢公民館にて9時～11時 8月15日に行われる相模薪能（寒川神社）の見学希望者の、集計及び申し込みについての検討会 雨天時の対策などの協議</p>
<p>傍聴席（高垣輝雄 2926-7164） 6月12日（火）定例会、14時～新所沢・東公民館 ① 前講座：環境クリーン部 ごみ行政の現状と課題 処理費用（委託費・人件費）、市民参加など ②広報ところざわを読んで～市の色々を考えます</p>	<p>地域の自然（加茂恵三 2944-6554） 6月9日（土）植生調査と堆肥場の設置 9時～ 6月23日（土）植生調査と落ち葉の移動 9時～ 7月14日（土）さつま芋蔓返しほか 9時～ ※いずれも早大B地区実験地において</p>
<p>楽悠クラブ（甲田和巳 事前連絡は不要） 6月12日（火）歌劇「ドン・ジョヴァンニ」DVD鑑賞 （場）中央公民館 （時）13:30～ 7月17日（火）「マリアが語る一家の物語」ドキュメンタリー DVD鑑賞（場）中央公民館 （時）13:30～</p>	<p>歴史散策クラブ（大河原功 2943-2004） 6月9日（土）武蔵国守護代大石氏縁の滝山城を訪ねる *集合：所沢駅新宿行先頭車両付近 9:50 7月14日（土）座学（門内）・新所沢東公民館 9:30 7月20日（金）福祉バスで古河を巡る・詳細別途</p>
<p>地球環境に学ぶ（塚本二郎 2942-3117） 6月19日（火）15：00～新所沢東公民館 5/17にメール送信された井手氏の資料“無尽蔵の資源”の勉強を中心に行います。 7月17日（火）15：00～場所 同上 定例会</p>	<p>葵の会（池田新八郎 2940-0711） 6月14日（木）13：30～16：00 中央公民館7号 古典講座「平家物語」第4回入道（清盛）死去 7月12日（木）中央公民館予定 古典講座「平家物語」第5回「実盛 忠盛都落」</p>
<p>地域の自然を考える会（前岳良子 2928-7334） 6月16日（土）草刈り、草取り<糞谷八幡地区> 6月17日（日）刈り作業<早稲田大学> 6月26日（火）トトロの森12号地管理作業 10：00～12：00</p>	<p>野老澤の歴史を楽しむ会（山本苗子 2995-0876） 6月21日（木）行田市史跡巡り 所沢東口武蔵野 銀行前7時50分集合（福祉バス使用） 7月5日（木）講演「東山道武蔵路と鎌倉街道」 埋蔵文化財調査センター9時50分集合</p>
<p>公園を楽しむ会（渡部正俊 2921-3014） 6月21日（木）：「レインボーブリッジお台場ー 葛西臨海公園」を歩こう 所沢駅8時30分集合 7月26日（木）：「世田谷美術館ー等々力溪谷と不動の 滝ー九品仏」を歩こう。 所沢駅8時20分集合</p>	<p>北欧の会（樋口俊夫 090-6483-7993） 6月23日（土）第32回例会 13時20分 フィンランド留学高校生の体験談を聞く 場所 新所沢東公民館研修室4号</p>
<p>所沢の自然と農業（高橋昶彦 2924-2056） 6月12日（火）例会、コロット整備支援 6月15日（金）松戸市「本土寺」散策 6月29日（金）湯の丸高原・池之平湿原散策（予定）</p>	<p>音楽連・市民大学派（若山昭 2922-1494） 6月18日（月）13:00-15:00 例会 7月23日（月）13:00-15:00 予定</p>



料理コーナー

後藤律子

青梅が出回る季節になってきました。梅と言えば梅干し、梅酒が定番ですが、暑い夏を乗り切るためにも是非、梅ジュースをお勧めします。

<とても簡単「梅ジュース」>

【材料】

- ① 青梅 1 k g
- ② 三温糖 600 g ~ 1 k g



【作り方】

- ① 青梅は洗って水気をふきとり、へたを取る。へたが取れた部分の水気も拭きとる。
- ② ポリ袋に入れて口をしっかりと結び、冷凍室で約24時間凍らせる。
- ③ 凍った青梅を、砂糖をまぶしながら、きれいに洗って煮沸消毒した広口の密封ビン(容量3ℓ)に入れ、冷暗所で保存する。
- ④ 毎日1回程度ビンを揺すって攪拌する。
- ⑤ 4 ~ 5 日ほどで梅シロップがひたひたになったら完成です。冷水や炭酸水で3 ~ 4 倍に割って飲む。

※ポイント

- ・梅を一度凍らせるのが、梅のエキスを引き出すコツです。
- ・ジュース用のウメは、青く固いものを使用しないと潰れて液が濁ります。

木道や出会ひ頭の青大将
 梅雨兆す風に一枚羽織りけり
 青葉冷えミイラに視線ありにけり
 白牡丹蕊(しべ)より蝶の飛びたてり
 踊子の赫(あか)きサンダル荷風の忌
 縦横に池面を狩りす初つばめ
 連げうの花くるくると飛ばしをり
 走り梅雨膝の疼きの増すばかり
 一雨に花の小紋の石だたみ
 風光る少女の赤き髪飾り
 幾度も同じ季語引く目借時
 鉄剣の金字耀(かがよ)ふ若葉風

鈴木すぐる
 鈴木 征子
 荒幡千鶴子
 飯泉 陽子
 井出 昇
 海老澤愛之助
 岡本詔一郎
 岡本 博
 粕谷 昇
 河瀬 俊彦
 小林 貞夫
 小林 典子

雨上りおだまきの花ふくよかに
 千葉版を読みつ笥茹(すし)でをりぬ
 江戸黒の光る蔵街夏柳
 バケツ手に走る少年春の土手
 走り茶を淹(い)れて狭山のかほりかな
 夫眠る墓やしきりに樟落葉
 青葉潮淡路へ橋をひとまたぎ
 桜蕊ふる陸奥(みちのく)の地震やまず
 朝市の先づは手に取る蕨かな
 日をこぼむ一人静の山路かな
 葉桜に透けたる空や万華鏡

佐藤 英子
 佐藤 八郎
 白神 恵子
 高梨 千代
 高橋 三郎
 高橋 三加子
 高橋 泉
 利根川啓一
 中村 直子
 橋本 佑子
 平栗 彰子

むさし野俳句会(二十四年五月) 作品抄

編集後記

編集委員長 池田新八郎

▼今年落雷が多く5月はすでに5回とか。それにしても5月26日の地面を叩きつけるような雹は天変地異を思わせた。これから梅雨に入るがどうなるだろう。

▼「五月雨(梅雨)は人の涙と思ふべし」

ある雑誌を読んでいたら正岡子規のこの句が目に入った。明治29年6月15日に起こった三陸での大津波の時詠んだ句だそうだ。この時も釜石市は多数の死者を出したらしい。東日本大震災の復興は遅々として進まず、元総理、大臣、東電が責任のなすりあいを行っている。いつの時代も涙を流すのは庶民である。

▼5月たまたま都内の大学で朝鮮半島に関する二つのイベントに参加し、日本と半島との間に横たわる問題の複雑さを感じた。一つは東大5月祭での「日系脱北

者からの命のメッセージ」シンポジウム。脱北を果たした二人の日系女性のナマのレポートは深刻で、衝撃的だった。もう一つは早稲田大学大隈講堂での、映画「道一白磁の人」特別試写会(6月9日公開)である。この映画は、日韓併合から4年後、日本の若い林業技師浅川巧(山梨県北杜市出身)が京城に渡り、朝鮮半島の山々の緑を取り戻すために努力、その間、朝鮮の白磁や民芸品の素晴らしさを見出していくという、日韓双方の教科書に載る実在の人物のドラマである。

▼重い話ばかりになったが、我がところざわ倶楽部は希望を持って活動していきたいものである。

先日JCOM所沢の広報担当者から、「ところざわ倶楽部」の活動は素晴らしいと褒められた。HPをよく見てくれているようで、お世辞でも嬉しい。編集に汗を流してくれている岡田俊吾氏に改めて感謝したい。